主体的に表現する児童の育成
－新聞を活用した言語活動の充実を通して－

串間市立大東小学校
教諭　門　田　直　光

Ⅰ　はじめに

現在、知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など急速に社会が変化する状況にある。そのような時代の中、子どもたちには「生きる力」が求められている。他方、ＯＥＣＤのＰＩＳＡ調査からは、思考力・判断力・表現力等に課題があることが明らかとなった。これらの課題解決のため学習指導要領が改訂された。その改訂のポイントとして知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視することが挙げられており、それらの育成を図るために言語活動の充実が求められるようになった。

本学級は、小学校第３学年である。表現する活動に積極的に取り組む児童の姿が見られる。しかし、自分の伝えたい内容をうまく書いたり、話したりすることが苦手であると感じている児童の姿も見られる。

「書くこと」について実態をさらに把握すると、作文の文言に偏りがあったり、一文が長くて話の中心が不明確であったりという点が明らかとなった。一方、「話すこと」において、自分の考えを発表する児童はいるが、積極的に発表する児童は固定化している。朝の会でのスピーチ活動では、「おもしろかった」「楽しかった」といった簡単な感想に終わってしまう児童が見られた。また中には、全体の場に出ると全く話せない児童や、スピーチが途中で止まってしまう児童の姿も見られた。これらの実態から、児童の表現力育成が必要であると考えた。

そこで本研究では、日常指導における言語活動の充実を通して、主体的に表現する児童の育成を図っていく。その際、児童にとっても身近な存在である新聞を活用し主体的に表現する児童の育成を目指していくこととする。そのことが「生きる力」の育成につながっていくのではないかと考えた。

Ⅱ　研究仮説

○　業前活動や朝の会において新聞を活用しながら「話すこと」「書くこと」の言語活動を充実させることで、主体的に考え、表現する児童の育成が図られるであろう。

Ⅲ　研究内容

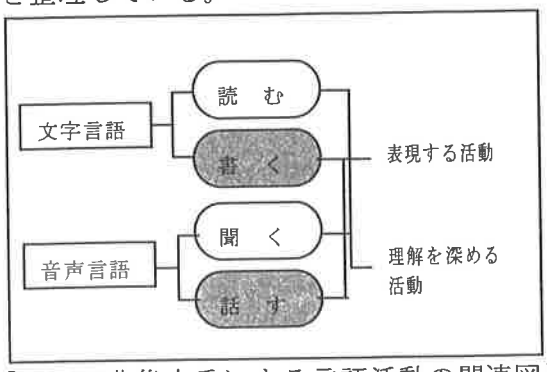
1　言語活動と新聞活用に関する理論研究
2　新聞を活用した「話すこと」の実践
3　新聞を活用した「書くこと」の実践

Ⅳ　研究の実際

1　言語活動と新聞活用に関する理論研究

(1)　言語活動について

元文部科学省小等中等教育局教科調査官の北俊夫氏は、言語活動を「話す活動」「聞く活動」「書く活動」「読む活動」の４つの活動ととらえている。さらに、これら４つの活動について、図１のように「読む活動」と「聞く活動」を「理解を深める活動」、「書く活動」と「話す活動」を「表現する活動」と整理している。

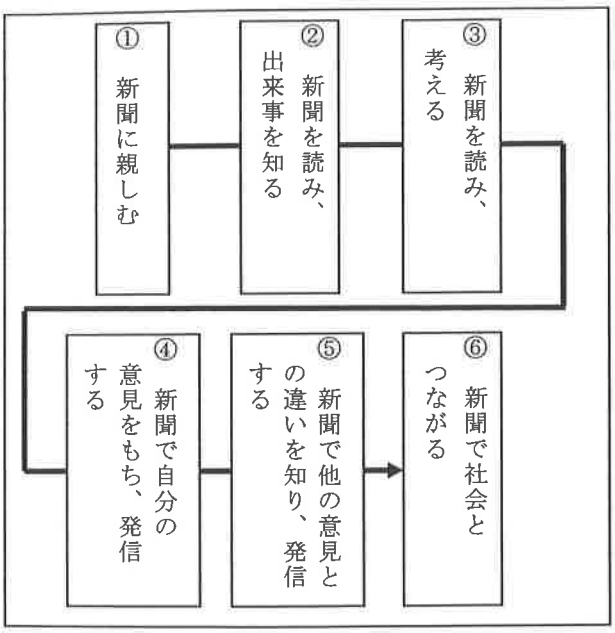


【図１　北俊夫氏による言語活動の関連図】

本研究では、特に表現する活動である「書くこと」及び「話すこと」に焦点を当てていくこととする。

(2)　言語活動と新聞活用

言語活動の充実にあたり、児童にとっても身近な存在である新聞を活用することはできないかと考えた。しかし、小学校３年生と発達段階を考えると、いきなり新聞記事の内容を読み取ることは難しい。そこで、ステップを踏んで新聞を活用していく方法を考えた。徳島大学教授、寺尾純二氏も、図２のように新聞を活用した「学びのステップアップ表」を提示している。



【図２　学びのステップアップ表】

この表をもとに、新聞の写真などを活用しながら「①新聞に親しむ」段階に焦点を当て、主体的に「話すこと」「書くこと」の充実を図っていく。

(3)　実践にあたって

第３学年の国語科の年間指導計画の中では新聞を活用するといった内容の設定が行われていない。そこで実践にあたっては、朝の業前活動の１５分間及び朝の会のスピーチといった日常指導の中で取り組んでいく。その際、国語科で学習してきたことを生かしながら表現力向上を図っていくこととする。

２　新聞を活用した「話すこと」の充実

(1)　新聞を活用したスピーチ活動の位置付け

「話すこと」の中にスピーチ活動がある。本学級でも朝の会の中で、スピーチ活動を取り入れている。しかし、発表は日常生活の出来事に関する内容がほとんどであった。そこでスピーチの年間計画を表１のように作成し、話題を広げることで主体性が図られると考えた。その中でメディアとの関連という内容で新聞の内容と感想についてスピーチする活動を位置付けることとした。

月	スピーチの題材
４・５月	自分をしょうかいしよう
６・７月	新聞を読んで
９・１０月	思い出を語ろう
１１・１２月	好きな本の紹介
１月・２月	今までの自分をふりかえり

【表１　スピーチの年間計画】

(2)　スピーチの仕方

国語科の学習でスピーチメモを作成してスピーチを行う授業を行った。そのことを踏まえながら、スピーチにあたって図３のような計画で進めていくこととした。

①　興味のある新聞の内容を読む。
（１５分）
②　興味のある新聞の記事を切り抜きノートに添付する。
（１５分）
③　記事の内容、感想をまとめた原稿を書く。
（１５分）
④　原稿をもとに構成メモを書く。
（１５分）

【図３　スピーチの計画】

原稿の作成にあたっては、原稿用紙一枚（４００字以内）にまとめさせた。まとめ方として「おもしろかった内容」「おもしろいと思った理由」を順序よく書かせるようにした。書いた内容は個別に指導し、家庭学習を通して原稿を完成させるようにした。さらに、書いた原稿の大事な言葉などを付箋紙に短くまとめさせ、スピーチメモを作成させた。

(3)　スピーチ活動の実際

児童は、これまでストックしておいた新聞を見ながら、気になる記事等を探していった。特にクイズになっている内容や、料理の写真やレシピについて関心をもつ児童が多く見られた。

原稿の作成にあたって、うまく文章化できない児童については個別の指導を行った。

スピーチメモの作成においては付箋紙を活用し短い言葉で柱を立てさせた。図４はスピーチの様子である。

【図４　児童のスピーチの様子】

実際の発表では、話し始めることに時間がかかっていた児童も、スムーズに最後までスピーチを行うことができた。

３　新聞を活用した「書く活動」を促すための新聞の活用

(1)　新聞の活用に当たって

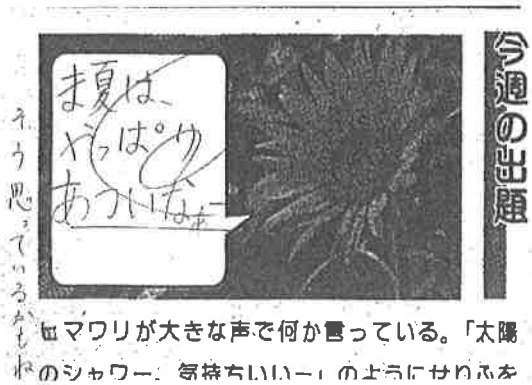
主体的な表現力を育成するためには、児童の「書きたい」という意欲を高めていく必要がある。しかし、児童の中には、文をつなげて書くことに抵抗を感じている実態がある。そこで、図５のとおり、宮崎日日新聞社が発行する「宮日こども新聞」に掲載されている「吹き出し大喜利」の欄を活用した。

【図５「吹き出し大喜利」】

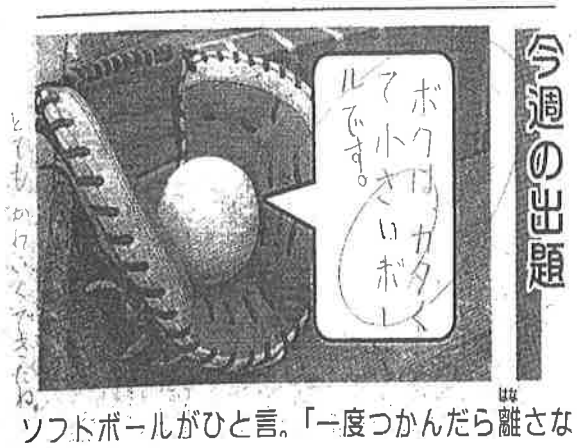
この「吹き出し大喜利」は、写真に写し出されている物に、吹き出しを付けていくというものである。短い単語だけでもまとめることが可能であり、また、台詞の内容を自由に考えることができるため、児童の主体的な「書く活動」が促されるのではないかと考えた。

(2)　新聞の活用の実際

活動においては、全員の児童が台詞を書くことができた。原稿用紙に作文を書くときには、どうしても考えがまとまらず、文字を書く手が止まってしまう児童もスムーズに書くことができた。中には、書き終わっても「まだ書きたいな。」という意欲的な児童の姿も見られた。図６、７は、児童が実際に書いた作品である。



【図６　児童の作品①】



【図７　児童の作品②】

Ⅴ　成果と課題

１　アンケート結果から

実践後、児童を対象に、「話すこと」「書くこと」がどれだけ向上したかにについて自己評価アンケートを実施した。表２がその結果である。

番号	質問内容	できるようになった	まあまあできるようになった	あまりできるようになっていない	ぜんぜんできていない
(1)	あなたは、３年生の始めにくらべて相手に分かりやすく話すこと（スピーチなど）ができるようになったと思いますか。	８人	１１人	１人	０人
(2)	あなたは、３年生の始めにくらべて相手に分かりやすく文章を書くことができるようになったと思いますか。	９人	８人	２人	１人
(3)	あなたは、３年生の始めにくらべて進んで発表することができるようになりましたか。	５人	８人	５人	２人

【表２　自己評価アンケートの結果】

学年当初に比べ、話す力が向上したと肯定的に捉えている児童が１９名で全体の９５％と多かった。また、書く力が向上したと感じた児童も１７名で全体の８５％と多かった。しかし、中には、まだ書くことに対してかなり抵抗を感じている児童も見られた。主体的な発表に関する質問については、１３名と全体の６５％にとどまった。

２　研究全体を通して

自己評価においては、自分自身の表現力に関する伸びを感じている児童が多かった。今回、新聞の活用を図ったが、写真などを見ながら文章を読み取っていこうとする児童の姿も見られた。今後は、自ら進んで表現したいと思うことができるように発表の場の設定の仕方や児童自身が話題をもてるような指導の在り方を検討していく必要がある。また、今回の研究では、授業以外での取組となったが、教科指導と日常指導をあわせて考えながら新聞の活用を図り、さらなる表現力の向上を図っていく必要があると考える。

引用文献・参考文献

○　「豊かな表現力の育成　～基礎・基本を大切にしたコミュニケーション活動の創造～」
http://www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~simogurose-sho/pdf/sthema.pdf

○　「小学校学習指導要領」
文部科学省　平成２０年　東京書籍

○　「言語活動は授業をどう変えるか　－考え方と実践のヒント－」　北俊夫著　２０１１年　文溪堂

○　「小学校学習指導要領解説国語編」
文部科学省　平成２０年　東洋館出版社

○　「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」
文部科学省　平成２２年

○　「言語活動モデル事例集」
水戸部修治編集　平成２３年　第一資料印刷

※　今回の新聞活用にあたり、宮崎日日新聞社が発行する「宮日こども新聞」及び「朝日新聞」を中心に活用させていただきました。